

## はしがき

大学入試合格をめざして英語を学んでいる受験生の皆さんにとって、最も身近な学習参考書といえば、まず「単語集」でしょう。これまで実に数多くの単語集が書かれて出回ってきましたが、それぞれに長所短所があるのは当然のことでしょう。本書は、その長所短所を十分に検討したうえで、新しいアイデアを加えてわかりやすく実際に役立つ単語集を作ることを目的として執筆しました。

本書では423の〈語義先出しタイトル〉をもとに、見出し語1266語、さらに派生語・同意語・類語などの関連単語を含めた計2676語の英単語が収録されています。ちょっと半端な数字ですが、これこそ無駄なくいかに覚えやすくするかを検討してきた上での数字です。

本書は次のような特徴を持っています。

### 1. 〈語義先出しタイトル〉で覚えやすい

見出し語が1つ1つばらばらに並んでいるだけでは覚えづらいし、また覚えたつもりでもすぐ忘れてしまうことが多いものです。

そこで本書では、これから覚えるいくつかの見出し語の意味を関連づけてまとめた〈語義先出しタイトル〉をつけました。この関連づけるということが、本書の書名の「コネクト/CONNECT」に込められた思いです。

赤字で示した日本語の見出しの中にある語義の英単語が、すぐ後に並んでいるという仕組みです。こうすれば、見出し語を覚えるのがずっと楽で、また忘れにくくなります。

## 2. 「ゆったりスペース」で頭すっきり

ページにぎっしり文字が詰まっている単語集は一見ムダがなくよいことのように思われますが、実はそうではないのかもしれない。

本書では、快適な「ゆったりスペース」をとることでストレスを減らし、集中力を失うことなく単語の学習ができるようにしました。

## 3. 「3方向からのアプローチ」で英語力が充実

本書では、「語い学習」「文法・語法理解」「会話表現習得」という「3方向からのアプローチ」をしています。

第1部～第3部の、土台を築き、視野を広げて、ライバルに差をつける頻出英単語では、語義をもとにした読解力の向上を図ることは言うまでもなく、派生語・類義語・反意語・**一語多義**コーナーによって、徹底した「語い力アップ」ができます。

第4部では、語法を知れば得点がアップする頻出単語の「文法・語法」を把握することで、入試問題に直接対応する力をつけることができます。

第5部では、個々の単語の意味だけでは対応できないような絶対得する頻出会話表現について学べるようになっていきます。筆記試験の会話文問題はもちろんのこと、センター試験のリスニングに登場する会話表現にも効果的に対応することができるようにと意図しました。

皆さんが本書を愛用し、よい結果を出して行って欲しいと心から願っています。

執筆者一同

## 本書の利用法

### 1. 段階を踏んで語い力をつけよう。

第1部～第4部までの見出し語を、順番に段階を踏んで覚えていくことが基本です。

第1部～第3部は、入試重要語を比較的易しい単語から難度の高い単語に分けたレベル別にしてあります。難度の高い重要語を先に覚えたい人は第3部から始めてもかまいません。

また、第4部は、読解を左右する重要な文法・語法の要素を持った標準レベルまでの重要単語となっています。基本単語の語義と基本となる文法・語法の定着を図りたい人は、第4部を最初に始めてもかまいません。

どの部も入試で必須の英単語を効果的に覚えられるように収録してありますが、やはり第1部から段階を踏んだ方が、力が定着します。

最後の第5部は、受験生が意外と知らないと思われる表現も入れてまとめてあります。

(第1部～第4部は必要に応じて重要な英単語を再掲している場合があります。)

第4部と第5部は短くてわかりやすい例文付きなのでまると覚えてしまうのもよいでしょう。

### 2. 重要語義を優先しながら、計画的に進めよう。

語義が①②③などと複数ある場合は、赤文字の語義を優先して覚えてください(付属の赤シートを有効に利用してください)。覚えたなら、次は黒字の語義を1つ1つ覚えてください。

また本書は、着実に覚えやすいようにゆったりとしたスペースのレイアウトにしてありますので、例えば1日2～4ページとか、10～20見出し語とかを目安にして、1語1語覚えていきましょう。

### 3. CONNECTさせて、欲張って覚えよう。

本書は関連づけて（つまりCONNECTさせて）覚える〈語義先出しタイトル〉を大きな特徴としています。

例えば、「勇敢なのは自信があるから」とあれば、

- (1) まず「勇敢はbraveで、自信はconfidence」と覚えます。
- (2) 次に、〈見出し語→語義〉の順に見ていきます。
- (3) さらに、複数の語義だけでなく、〈派生語や類義語・反意語〉を見ていきます。すると、bravery「勇気」、confident「自信にあふれた」にもたどり着き、語い力アップがめざせます。

このように、派生語と同時に、類義語や反意語も物にできます。1語から2語、3語へとつながるので語い力が効果的につくのです。

実際、入試問題でも派生語から類義語・反意語までが出題されますので、そこは欲張って覚えていくことが大切です。そうすることで、読解力アップの助けとなり、英文を読むことが楽しくなるものです。

### 4. 一歩前進した知識をつけよう。

ライバルに差をつけたい受験生のために「一歩前進」という項目を設けてあります。〈見出し語→語義→派生語など〉の順で覚えたあとで、仕上げとして「一歩前進」の知識を吸収すれば大きな自信につながることでしょう。

#### ●読んで覚える、書いて覚える●

本書の特徴である、意味がまとまった〈語義先出しタイトル〉に入った複数の英単語をいっしょに効率よく覚えていきましょう。略記は、何度も声に出して「読んで覚える」、何度も手で「書いて覚える」のが基本です。1日に覚える分量、どんな順で覚えていくかなど、計画を立てましょう。そして、毎日持ち歩いて英単語に接する時間を楽しんでください。

とにかく、「しゃかりきになって覚える」ことが大切です。必ず覚えられます。皆さんの健闘を祈っています。

Good Luck! 幸運を祈ります。

## 対象と主題

**object**  
[ˈɒbdʒekt]

- ① 対象  
② 物体  
③ 目標(=objective)  
④ 目的語
- ⑤ [ˈɒbdʒekt] (～に)反対する(to)  
★ ⑥ objection 反対, 異議(to)  
objective ⑦ 客観的な  
⑧ 目標  
⑨ ⑩ ③ aim / end / purpose / target / goal 目的, 目標

**subject**  
[sʌbdʒekt]

- ① 主題, 話題  
② 科目  
③ 被験者  
④ 臣民  
⑤ 主語
- ⑥ ① (～に)かかりやすい(to)  
② (～の)支配下にある(to)
- ⑦ [səbdʒekt] 服従させる(to)  
★ ⑧ ⑨ ① theme [θi:m] (作品などの)主題,  
テーマ  
topic 話題, 題目

**lead**  
[li:d]

lead to ~

- ① (道などが) ~へ通じる  
② ~という結果になる

例 ① All roads lead to Rome.

[諺]すべての道はローマに通ず。

◆ ある一つの目的に達する手段は幾つもあるという意味。

**object**  
[ɒbdʒekt]

object to ~

~に反対する・抗議する

例 Do you object to the death penalty?

あなたは死刑(制度)に反対しますか。

【単語】 oppose 「~に反対する」は他動詞なのでtoは不要。ただし、形容詞opposedはbe opposed to ~ 「~に反対する」で用いる。

**occur**  
[ə'kɜ:(r)]

occur to ~

(考えなどが) ~の頭に浮かぶ・閃く  
(=strike ~)

例 A good idea has occurred to me, Mary.

良い考えが浮んだよ、メアリー。

【単語】 ① occurrence 出来事、事件 (= happening, event)

**refer**  
[rɪfə(r)]

refer to ~

- ① ~に言及する、~を口にする  
② ~を参照する

例 ① Is this the wordbook (which) you referred to the other day?

これがあなたが先日言及した単語集ですか。